第１学年　国語科学習指導案

１．日時・場所　令和元年１２月６日（金）　４校時
２．
２．単元名　　こえに出してよもう「はじめは『や！』」（全１０時間　本時４時間目）

３．単元目標

○登場人物の言動から、様子を想像しながら読むことができる。 ○人物の言動から想像したり、考えたりしたことを話し合うことができる。

４．「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題「子どもが解決したい問題をもち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」 手だて・・・・子どもの思いや願いを見とった単元構想と授業づくり 低学年ブロックテーマ「感じる心、素直に表現する自分」 ・人の言動に何かを感じる姿 ・自分の思いや、他者からの刺激を受け止め、素直に表現する姿

（１）児童の実態

＜１年の子どもたち＞

明るく素直な子が多く、元気に学校生活を送ることができている。活動的な児童に流されてしまうこともあるが、友だちのことを思いやった言動を考えられる児童も多くいる。

学習面では、一生懸命がんばろうという気持ちをもっている。自分の意見や考えを積極的に発言する児童がいる一方で、考えはもっているが挙手して発言する際に声が小さくなってしまいがちな児童や、なかなか自分の意見をもてず、話し合いに参加できにくい児童もいる。

「おはなしをよみましょう」という単元で、「たぬきのじてんしゃ」を学習した。登場人物がどのようなことを思ったり考えたりしたかを、ノートに書いたり話したりする学習を行った。また、「おおきなかぶ」や「うみのみずはなぜしょっぱい」の学習で、登場人物の気持ちや人柄を読み取る学習を行った。1 年生のこの段階では、平仮名の学習が終わり、文字としては書けるようになってきている。しかし、単語として文字を書いたり、文にして文字を書いたりすることが十分にできない児童もいる。そのため、**話すことを中心に「同じです。」という言葉で終わらせずに、「～さんと同じで、～です。」と、自分の言葉で話せるように繰り返し意図的に指名し、一人ひとりが学習課題に対してしっかりと向き合い、話すことになれ慣れるように指導を行ってきた。**また、考えが持てない児童に対しては、誰の考えがいいと思ったかを言うようにした。そして、真似をすることから始め自信をつけていった。

また、物語などのお話を聞くことは大好きで、真剣に聞いているが、その内容のとらえ方は個人差が大きく、感想も「おもしろい。」「かわいそう。」などと一言で終わってしまいがちな児童も多い。そのため、どうしてそのように思ったのか、なるべく本文から根拠を示し、理由を話す経験を積んできた。

＜聴く・話すについての指導＞

まず、聴くことの大切さを指導した。入学してきた子どもたちは、学校は勉強する所と漠然と思っていたと思うが、勉強するということは、**「人の話を一生懸命聴くこと」が、一番の大切な学習である**ことを話した。さらに、一人では考えられないことでも、クラスのみんなが一人ひとり自分の考えを出し合えば、よい考えがたくさん出ること、そしてそれが学習であることも伝えてきた。日常生活の中でも

聴くこと・話すことを意識できるようにしている。話したいことがあるときは、「はい、はい、」を連呼する児童もいるため、「はい。」と一度言って、手を挙げることや、聞き取れないときには「もう一度言ってください。」と、聞こえる声で話すように友だちに伝えることも学習のルールとして指導している。これは、友だちの考えを真剣に受け止めようとするブロックテーマにつながると考えるからである。また、**挙手するときには、「同じです。」「似ています。」「他にもあります。」「他の言い方をします。」「詳しくします。」など、友だちの意見につなげていけるように言葉を提示し、使えるようにしている**。ただ、まだ話し合いでは、自分の考えをもてず、話し合いに参加できない児童がいる。まず、友だちの話をよく聴いて、誰の考えがよいか考え、真似するところから始めている。学習の中で「○○さんと同じで、～だと思います。」と自分の言葉にして言うことも習慣づけしている。

さらに、発言に対して、反応することができるように「うん、うん。」と頷いたり、「なるほど。」「そうか。」「いいね。」と同意したり、感心したりしたことを素直に表現できるように声をかけている。また、自分の考えと違う場合には、「でもさ、～」と、友だちの考えにつなげていけるように発表を促すことで、自分の思いを伝える場をつくりながら、話し合いに意欲的に関われるように配慮している。

＜これまでの関わり合い・ひびき合い＞

話すことに抵抗がないように、朝の会で日直の話の時間を設け、話したことに対して友達からの質問を受け、それに対して答えるというようなやり場を取り入れている。その際には、特に質問者を指名せず、子どものつぶやきを日直の児童が拾い、それに答えていくようにしている。挙手をしての質問には、恥ずかしさがあって言えない児童も、つぶやきを拾ってもらうことで徐々に声が大きくなってきている。日直である話し手は、そこで質問が出ないように、分かりやすく話したり、詳しく話そうとしたりする姿も見られてきている。また、「隣同士で相談する。」「自分の考えを話してみる。」「日常の些細なことを隣同士で話す。」というような、ペアトークを取り入れ、話すことが楽しいと思えるように指導をしている。そして、「グループで話し合い、考えをまとめさせる。」というように段階を踏みながら、ステップアップをめざしている。また、そのために、隣同士の席やグループメンバーにも配慮をしている。

学習中に、**「でもさ・・・」「だって・・・」などと友達の意見につなげていこうとする姿**も見られているが、話し合いに参加できにくい児童や、声が小さい児童もいるので個人差に応じての支援が必要であると考える。また、話し合いが一部の児童だけで進むことがあるので、全体を巻き込んで話し合いが進められるように工夫していきたい。

（2）単元と指導

＜単元について＞

本単元は学習指導要領第１学年及び第２学年「読むこと」の指導事項「ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること」、「ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと」、「オ 文章の内容と自分の体験を結びつけて感想をもつこと」及び言語活動例「ア 事物の仕組みを説明した文章などを読みわかったことや考えたことを述べる活動」また、「話すこと・聞くこと」の指導事項「オ 互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと」さらに、「我が国の言語文化に関する事項」の「イ 長く親しまれている言葉遊びを通して、ことばの豊かさに気付くこと」にあたる。

低学年の物語文の学習では、登場人物に「同化」しながら読むことが大切となる。そこでここでは、物語の世界にじっくり浸り、読み味わう体験を十分にさせたい。

本教材は、時間的な経過に沿って物語が展開しているので、読み取りやすい。くまさんときつねさんが何度も出会う場面では、くり返しの地の文や会話文、心内語があるため、子どもたちが想像しながら読んでいくことができる。また、友だちづくりについて子どもたちの経験にも関わりが深いという点で、親しみのもてる作品でもある。「くまさん」が「きつねさん」と会うたびに抱く思いは、普段の生活の中で子どもたちが友だちに対して抱く思いと共通するところが多いからである。

また、叙述の整った分かりやすい文が多く用いられ、それぞれの場面に挿し絵もあるので、本文と対

応させ、二人の言動から様子や心の変容を、子どもたちが登場人物に「同化」しながら楽しくとらえることができる教材である。

お話を読み進めることで、文章の中の重要な語や文（時間や事柄の順序に関わって文章の中で重要になる文、読み手として必要な情報を適切に見つける上で重要になる語や文）を考えて選び出すことができる教材である。

＜指導について＞

単元を貫く言語活動を、主人公の「くまさんになって気持ちを書く」こととした。登場人物の気持ちを書く学習は「たぬきのじてんしゃ」で行っている。この学習活動を通して一人ひとりがくまさんの気持ちにせまるようにしていきたい。前述のように、自分の考えをもちにくい児童や拾い読みをしていて内容を理解しにくい児童もいるため、場面ごとの人物の言動などを視写したり、書き込みをしたりしながら自分の考えをもてるようにしていきたい。また、一人ひとりの考えを交流しそれを生かしながら、場面や人物の心の様子を想像し、くまさんになって吹き出しに書き、書いたことを元に意見を言うようにすることで、全体を巻き込んだ話し合いを成立させていきたい。

子どもたちの初発の感想から､何度も出会うくまさんときつねさんが｢いつなかよくなったのだろう。」という問題が出てくると考えられる。その問題は、題名にある「や！」という言葉や、何度も出会う二人の様子の変化、子どもたち一人ひとりの「友だち」と「なかよし」のとらえ方の違いなどから、この物語の中で子どもたちが解決したい問題となるであろう。どのような状態が「友だち」なのか、どんなことができたら「なかよし」といえるのかなど、一人ひとりの捉え方の違いを事前に把握しながら、話し合うことを通してその捉えも明確になってくると考える。それは、今後の人間関係を築いていく時にも、生かされていくのではないだろうか。

本時で子どもが解決したい問題は「いつなかよくなったのだろう？」である。「や！と言ったときだよ。」「荷物をもってあげましょう。と言ったときだよ。」「一番の友だちになりました。って書いてあるところだよ。」という様々な考えを子どもたちがもつだろう。それを次時からの「もっと詳しく場面ごとにどんなことがあったのか」を読み取らせていくことにつなげていきたい。「いつなかよくなったのか」を本文の叙述を根拠に自分の考えをもち、友だちの考えを聴いたり、自分の考えを伝えたりする姿をひびき合いの姿としたい。そして、自分の考えをより明確にするために、ワークシートや挿し絵を用いて、視覚的にも理解できるよう工夫していきたい。

単元構想　　1年　国語科　「はじめは『や！』」

単元目標	○登場人物の言動をもとに、想像を広げながら読むことができる。

事前の学習　「たぬきのじてんしゃ」「うみのみずはなぜしょっぱい」「おおきなかぶ」　⇒　登場人物の気持ちを考えたり、吹き出しに書いたりした。

★みんなで話し合うと楽しいな。
★もっと、お話を読んで、話し合いたいな。

初発の感想を書くことができる（関心）

はじめは「や！」って、どんなお話だろう？①②

児童の感想から、全文を通した課題を作っていく。

題名読み　・「はじめは」だからなにか始まるのかな？
・「や！」といって何かをするみたい。　・内容が知りたいな。

全文通読（範読）　感想を書こう・感想交流をしよう　語句・登場人物の確認　言葉の確認　・主人公はくま　・きつね　・きつねさんは荷物を持ってもらってうれしそう。

・きつねさんの荷物をくまさんがもってあげたところよかった。
・優しいくまさんだな。

・くまさんときつねさんはどこへいくのかな？
・二人は何度も会っているね。
・「・・・。」って、何度もでてくるよ。

二人はいつ仲良くなったんだろう。

なぜ、二人は一番の友達になれたんだろう。

・初め、二人は仲良くなかったけれど仲良くなれてよかった。

話の場面を確かめよう③

一人読みをして、くまさんの気持ちを想像することができる（読む）

登場人物・物語の背景の確認　・「野原」「町」「公園」と場面が変わっている。

一人読み　くまさんやきつねさんの気持ちがわかるところや、変わったところに線を引き、書き込みをする。

初め　・スタタ　スタタ　スタタ　**でも、**ふたりはともだちじゃないから、「・・・。」
・だまってとおり過ぎました。

変化　・「・・・。」でも、**まだ**ともだちじゃないから、すこしすまして、「や。」⇒・にもつをもってあげたくなりました。

学習問題をもとに、文からわかる気持ちを書き込んでいくよう助言する。

・くまさんは、ベンチにおいたぼうしをとって、そっとひざにおきました。
など

くまさんときつねさんの気持ちの変容に気づくことができる（読む）

二人はいつなかよくなったんだろう？④本時

言葉に着目することで、少しずつ変容していくことをとらえられるようにする。

・（きつねさんちょっと休んでいくといいのに。）それで、ぼうしをひざにおいたところだと思う。
・「・・・。」で、すまして、「や。」っていったところだと思う。

・でも、ふたりはまだともだちじゃないから、ってかいてあるから、違うと思う。
・「半分もちましょう。」っていったところだと思う。やって挨拶したから。
・「やあやあやあ。」って挨拶したところ。とたんにふたりはとってもとってもうれしくなって、その日から一番の友だちになったって書いてあるから。

・どうして二人は一番の友だちになれたのかな？
・どうやって友だちになったのかな？
・友だちになるまでにどんなことがあったんだろう？

場面ごとの変容に気づくことができる（読む）

いつ、二人は一番の友だちになれたんだろう？⑤⑥⑦⑧

⑤⑥⑦⑧の学習を通し、くまさんの気持ちが変わったことに気づけるよう留意する。

	野原で出会ったところで	町で出会ったところで	信号で出会ったところで	ベンチで出会ったところ
くまさんの気持ち	・スタタ　スタタ　スタタ。 ・きつねさんを見ました。 **でも、ふたりはともだちじゃないから*だまってとおりすぎました。***	・（あ、さっきのきつねさんだ。）	・横断歩道をあるきはじめました。 **でも、ふたりはともだちじゃないから*気がつきません。*それでふたりは、だまってとおりすぎました。**	・（きつねさんちょっと休んでいくといいのに。）それで、ぼうしをひざにおいた。 **でも、*まだ、*ふたりはともだちじゃないから「・・・。」「や。」**
きつねさんの気持ち	・スタタ　スタタ　スタタ。 ・くまさんを見ました。	・（あ、さっきのくまさんだ。）	・横断歩道をあるきはじめました。	・ベンチにすわった。
	＊見ただけだから友だちになっていない。	**＊気づいたけど友だちになっていない。**	**＊気づかずに通りすぎているから友だちになっていない。**	**＊やっぱりこの場面で一番の友だちになったと思う。話をしている。荷物をもってあげている。 ＊友達じゃないと荷物を持ってもらわない。**

・「おおきなかぶ」や「たぬきのじてんしゃ」みたいに、お手がみをかきたいな。

きつねさんとともだちになったくまさんに手紙を書いて交流しよう⑨⑩

自分の経験や優しいくまさんの行動にも気づかせ、手紙を書くようにさせる。

６本時について

（１） 本時目標

〇二人はいつともだちになったのか読み取ることができる。

（２）本時展開

学習活動	主な支援・留意点【評価】
二人はいつともだちになったのだろう。 〇きつねさんがにもつをいっぱいもっているのをみたとき ・（きつねさんちょっとやすんでいくといいのに） ・くまさんは、ベンチににおいたぼうしをとってそっとひざにおきました。 〇すこしすまして、「や。」といったとき ・こえをかけているから ・えを見るとおたがいに見ているから 〇にもつをもってあげたとき ・にもつをもってあげたくなりました。 ・「はんぶんもちましょう。」ともだちじゃなければもたない。 ・きつねさんも「や、ありがとう。どうもどうも。」といっているから。 〇つぎの日にあったとき ・「やあやあやあ。」とおたがいにあいさつしているから。 ・ふたりはとってもうれしくなってとかいてあるから ・なかよし、いちばんのともだちになりました。とかいてあるから。	〇本時のめあてを確認し、学習意欲がもてるようにする。 〇本文を読み内容を確認する。 〇自分の考えを書いたワークシートや教科書を読み返し確認する。 〇挙手するときに、同じ、似ている、他にあるなどが言えるように声をかける。 〇必要に応じて動作化を取り入れ、根拠がさらに明確になるようにする。 〇本時の振り返りをする ◆読み取った自分の考えを発表したり、友だちの考えを聞いたりしている。【関心・意欲・態度】 ◆くまさんときつねさんの気持ちの変容に気づくことができる【読む】